

活動目標 「地域に根ざした新しい発達支援・心理支援」

《基本方針》

「臨床発達心理士会群馬支部」は、「一般社団法人臨床発達心理士会群馬支部」として新たに活動を始めます。

旧群馬支部では、一貫して「ぐんま」という地域に根ざした地道な発達支援・心理支援を目指し活動してきました。一般県民向けの公開研修会などを通じ、県内でもある程度認知され、一定の地位を確保しつつあると考えています。新しい法人の支部としても、これまでの活動を踏襲し、より一層活性化していくべく、取り組んでいきたいと思えます。

コロナウィルスへの対応は、大きな転換期にあります。とはいえ、まだまだ予断を許さない状況であり、社会全体の心理支援に関してもむしろこれから本当に必要とされる時期なのかもしれません。また、昨年、国連の障害者権利委員会から出された日本の特別支援教育システムについての要請は大きな反響を呼んでいます。様々な場で、真のインクルーシブな教育とは何かを問い直す機運が高まっていると感じています。インクルーシブ教育システムは単に「学校教育」に限った問題ではなく、心理士として大きな視点から考えていくことも必要でしょう。

そのような社会情勢の変化の中、臨床発達心理士の活動をより主体的なものにすることを目指して新たに法人格を取得しました。単に名称が変わっただけでなく、社会の中でより積極的に役割を担うことが期待される、と考えます。個々の会員の専門性の向上を目指す職能団体として、益々充実した活動が求められてきています。新しい群馬支部としても、「ぐんま」という地域に根ざした地道な発達支援・心理支援を目指し活動してきました。

22年度は、十分な感染防止策を取りながら対面での研修会を企画・実施しました。他の学会・研修会でも対面で開催されることが増えてきました。個人的な感覚ですが、対面での実施にはリモートにはない深まりもあると感じてきました。23年度も、対面の研修会を企画していきます。加えて、法人化したことも踏まえ、社会的なアピールをどう進めるかなど、検討していくことも必要です。群馬支部らしい、地域に根差した活動を模索していきたいと考えています。

より充実した活動に向けて、多くの支部会員の方の力をお借りしながら、群馬支部の活動を活性化していきたいと考えます。基本は、個々の会員がそれぞれの場で力を発揮することだと考えています。そして、その力を集めることで支部活動が豊かになっていくことを目指したいと考えます。今後とも、支部活動へのご協力をよろしくお願いします。

① 地域重視の研修会の企画・開催

1. 総会・会員の事例に基づく研修会

【総会】 日時： 5月 21日（日） 13:00～

会場： 共愛学園前橋国際大学 短期大学部 501号室

【研修会】 日時： 5月 21日（日） 14:00～17:00

会場：共愛学園前橋国際大学 短期大学部 501号室 等

テーマ：「地域支援の充実に向けた多職種連携」

話題提供：小島 裕史（高崎市役所）

グループ討議ファシリテーター：岡田 真友（吉岡町役場）

：宮崎 聡子（群馬県立ぐんま学園）

：三石 遼馬（群馬県立藤岡特別支援学校）

2. アセスメントに関する研修会の開催

日時：11月18日（土）

場所：群馬県社会福祉総合センター 大ホール

テーマ：WISC-Vによるアセスメントについて

基調講演等：大六一志氏

○参加については、会員を優先し、他の専門職も参加可とする。

（他支部1,000円、会員外は2,000円、法人会員以外の臨床発達心理士（ポイント付与が必要な方）は6,000円）

○定員80名

② 臨床発達心理士の存在のアピール

法人化を受けて、何らかの新しい活動を考えていきたいと思えます。これまでの活動を通じ、群馬県内において一定の知名度を得てきているものの、まだ十分とはいえません。社会状況をにらみつつ「一般公開研修会」についても、再開に向け検討を開始したいと思えます。

また、新たに「準会員・賛助会員」という制度もでき、支部としての取扱い等も検討を進めていく必要があります。ちなみに、「準会員」とは今後資格取得を考えている方を、「賛助会員」とは心理士会（支部）の活動に賛同していただいた機関等を想定しています。そのため、研修会以外の広報活動にも力を入れていきたいと考えています。さまざまな他機関との連携などを通じ、多くの方々に「臨床発達心理士」の存在を知っていただきたいと考えています。まずは、個々の会員がそれぞれの臨床現場で地道な支援を続けていくことも、重要な広報活動だと考えます。

③ スピーディーな情報提供

新しい法人の支部としても、今後もNLでの情報提供に努めていきます。

会員の皆さんからも、支部会員に知らせたい情報があればお寄せください。